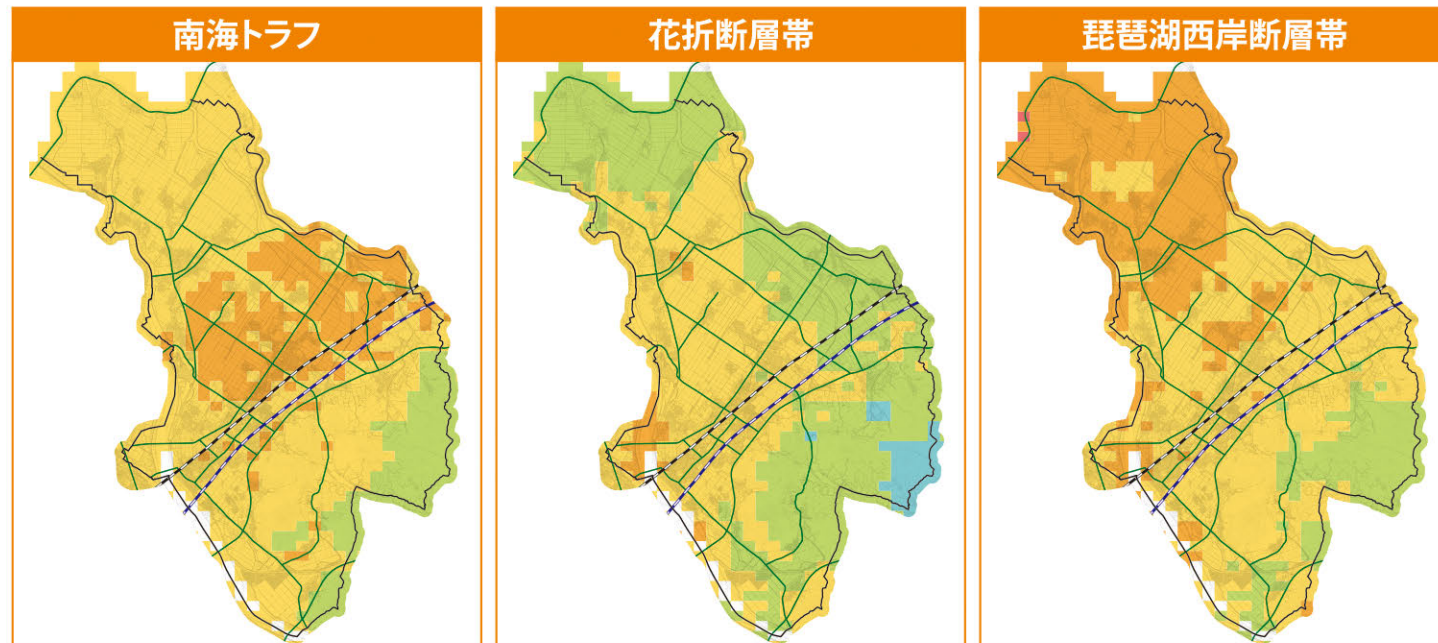


地震ハザードマップについて

- 右ページに示す地震ハザードマップは、平成25年度に滋賀県が実施した震度分布等の推計結果を使用したもので、断層等ごとに推計した結果を重ね合わせた「最大値」を右のページに示す学区割で33ページから46ページに示しています。
- 地震による液状化が発生する危険度を示した液状化危険度マップを47・48ページに示しています。
- 対象断層等は、野洲市に大きな影響を与える「南海トラフ」「花折断層帯」「琵琶湖西岸断層帯」のほか、「木津川断層帯」「柳ヶ瀬関ヶ原断層帯」「鈴鹿西縁断層帯」の6種類があり、影響が大きい3つの断層等による個別の震度分布を参考に示しています。



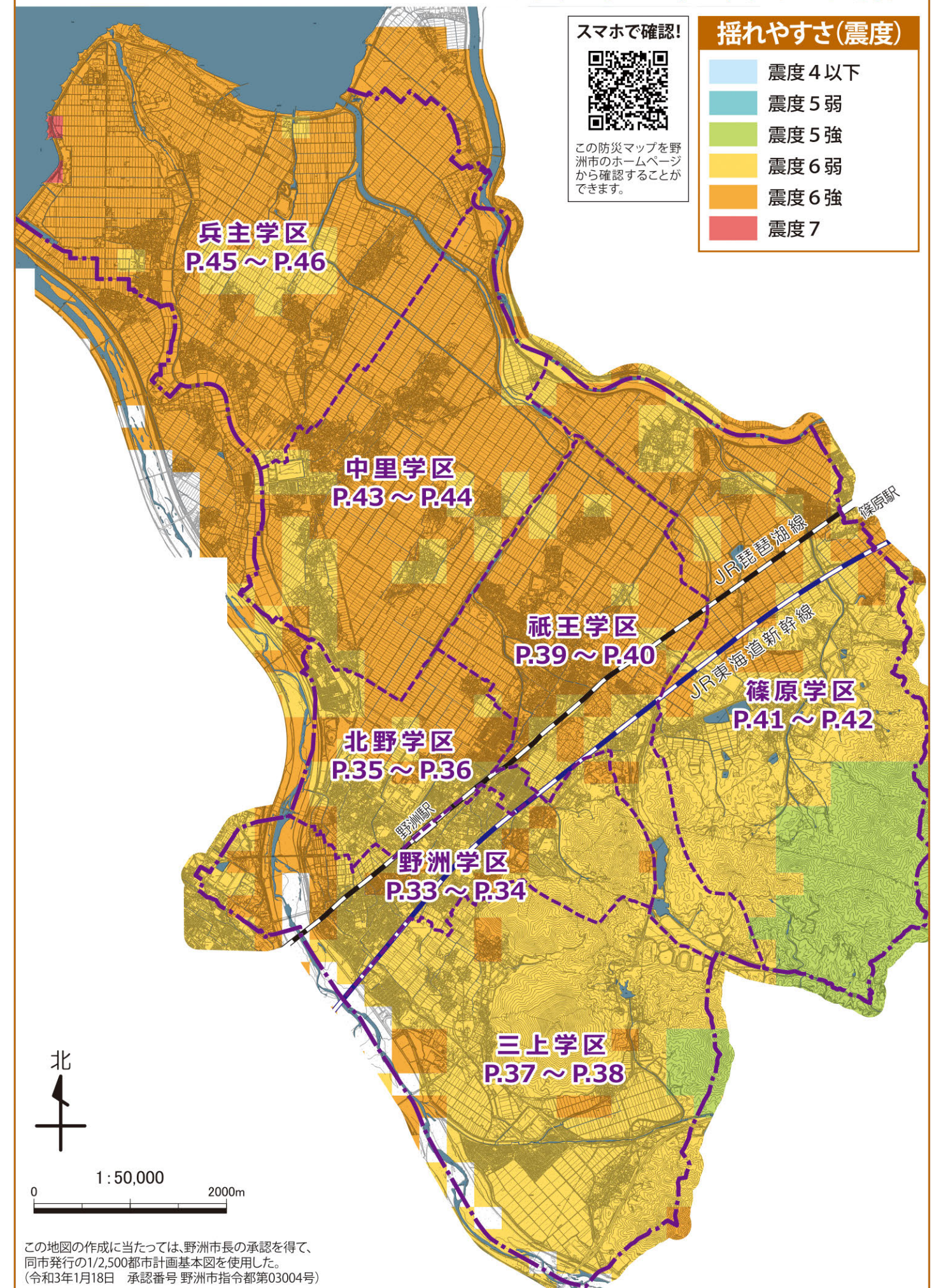
揺れやすさ(震度) 震度4以下 震度5弱 震度5強 震度6弱 震度6強 震度7

震度と揺れ等の状況

震度4	震度5弱	震度5強
●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が倒れる。	●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	●物につかまらなと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱	震度6強	震度7
●耐震性が高い ●耐震性が低い ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	●耐震性が高い ●耐震性が低い ●はわなと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	●耐震性が高い ●耐震性が低い ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

地震ハザードマップ索引図



スマホで確認!



この防災マップを野洲市のホームページから確認することができます。

揺れやすさ(震度)

- 震度4以下
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強
- 震度7